



なぜ、野々市市に
この指針が
必要なのか？

野々市市は古い歴史の中、人が集まり、産業・文化が栄え、人材や情報が豊かなまちとして発展してきました。今は、古くから住んでいる人に加えて、子どもや大学生など若い世代の新しい住民も多く住んでいます。文化施設やスポーツ施設、暮らしを支える施設も充実しており、「住みよいまち」、「元気なまち」として広く知られています。

その反面、住民の出入りが多く定住化に至っていない、大学生をはじめとする若い世代と古くから住んでいる人との交流が少ない、団体行事の担い手不足や参加者の減少など、「もっと野々市市が好き」という気持ちになかなかつながらないという現状があります。

それでは、わたしたちはどのように考え、行動すればよいのでしょうか？

**魅力あるまちづくりの主演は、
このまちを想い愛する市民みんなです。**

「だれかに言われたから行動する」、「私が行動しなくてもだれかがしてくれるだろう」と他人任せにするのではなく、野々市市に住む人、働く人、学ぶ人、あらゆる市民が「自分たちのまちは自分たちがつくる」という自発的な姿勢で臨むことから始まります。

市民一人ひとりが自分の想いを発信し、学び、行動し、お互いに連携し合うことで、個人では解決できなかった課題を解決することができます。そのためには、市民、町内会、各種団体、企業、行政それぞれにおいて、お互いの意見や立場を尊重し連帯することが大切です。

そして、変化する時代や地域のニーズを捉えながら効果的に活動し、さらに創造力にあふれ、いつまでも続く取り組みとなるよう成長し発展しなければなりません。

そのためには、市民みんながわかるルールを決め、想いを共有し、同じ目標に向かって進む必要があります。それが「市民協働によるまちづくり」であり、市民協働の原点であり、この指針なのです。

- 市民協働とは、
住みよいまちづくり・元気なまちづくりを
行うための取り組みです
- 市民協働とは、
市民・各種団体・行政などを結び付け、
相乗効果を生み出す取り組みです
- 市民協働とは、
自ら学び、みんなとつながり、
継続的に活動し成長していく取り組みです

この指針では、市民協働のために、集い、学び、育み、行動し、成長し続けるプロセス（過程）を、小中学校や高校、大学での学びと同じように捉えています。生徒や学生だけの「学びのキャンパス」ではなく、野々市市全体を「キャンパス」として見立て、「住みよいまち」、「元気なまち」を継続的に発展させていくことを目的としています。それが、いつでも、どこでも、だれとでも、いくつになっても、市民協働の想いがあふれる、市民が主役の「ののいちキャンパス」なのです。



この市民協働の方程式は、「自発心」、「連帯感」、「創造力」のいずれが欠けても理想の野々市市（ののいちキャンパス）を実現させることはできないことを表しています。

市民一人ひとりの想いがみんなの夢（目標）へとつながり、その夢（目標）を実現するために行動することが、未来をつくる原動力になります。